

授業力 up を考える・・・

授業力は、いわば教師の本丸の部分です。この授業力を「授業を考える力」「授業をする力」「授業を振り返る力」の三つの力の総合力と考えることができます。

授業力は研究授業をすると高まると言われていますが、それは、自分で指導案をつくり、授業をし、参観者に見てもらい、検討してもらうことによって、これら三つの力が高まるからにはほかありません。また、授業を見たり、研究会や講座に参加したり、書籍等を読んだりすることでも授業力は高まります。

しかし、研究授業が度々あるわけではなく、かといって自主的に公開研究授業をするにもハードルが高い、いろいろな研究会や講座に参加するにも時間が取れない、そんな教師も多いかと思えます。(そういう機会は本当に大切なのですが・・・)

そうすると日々の授業を通し、自分自身で授業力を高めていくことが必要になってきます。この日々の授業への向き合い方を変えるだけでも授業力は高まっていくものと考えます。

○日々の授業での振り返りが重要

日々の授業では、先ほど挙げた「授業を考える力」「授業をする力」「授業を振り返る力」の3つの力がバランスよく高まっていくことが望ましいのですが、実際にはそのようにいかないのが現状です。

なぜなら、「授業について考える」「授業をする」機会は、否が応でも毎日のようにあるのに比べ、「授業を振り返る」機会は圧倒的に少ないからです。(授業研究会の重要さが分かります)

終わった授業については「うまくいかなかった」「子どもが乗ってこなかった」など、漠然とした感想を持つ程度で終わっていることが多いと感じます。振り返りは、特にやらなくても困ることではないのでなおさらです。明日の準備の方が優先されてしまいます。

しかし、この自分の授業を振り返ることが次の授業につながるものだと考えています。

自分の授業の課題を明らかにすることで「次はこうしよう」という思考が生まれ、教師の学びが始まります。そして、次からは、ただ闇雲に授業をこなすのではなく、きちんとした課題をもって授業に臨むようになります。子どもたちの本時の学習で課題があるのと同じことです。教師も学び続ける態度を大切にしなければいけません。その結果、「授業を考える力」「授業をする力」も次第に向上してきます。継続は力です。

○1日1授業10分の具体的な振り返り

でも、毎日すべての授業を振り返ることは時間的に大変難しく、正直無理です。そこで、1日1授業、時間にして10分だけの振り返りをお勧めします。

振り返りでは、「うまくいかなかった」「子どもが乗ってこなかった」などの漠然とした感想を「うまくいかなかった理由は、教材にあるのか、授業構成にあるのか、発問にあるのか、他の理由なのか」と、より具体的に考えていくことが重要となります。そして、次の授業ではどうしていけばよいのかを自問自答します。



○振り返りで気を付ける3点

①授業を振り返る視点を変えてみる

- ・自分がこの授業の参観者だとしたら、どんな意見を持つだろう。
- ・尊敬する先生がこの授業を見たら、何というだろう。

視点を変えて振り返ると客観的に冷静に自分の授業を分析することができます。(メタ認知)

②子どもにとってこの授業はどうだったのかを考える

この時間を通して、どんな学びがあったのかを子どもになって考えます。

③振り返りから課題を出したら、その課題の解決方法を見つけ、明日からの授業で試してみる

今は、インターネットで検索すれば課題に対しての様々な解決方法が見つかります。すぐに解決できないような課題だったら書籍を取り寄せることもできます。また、こんなときこそ周囲の教師に聞くべきです。見つけた解決方法がうまくいかなかったり、新たな課題が出てきたりすることもあります。でも、この繰り返しから逃げない限り授業力は向上していきます。

1日1授業を振り返るとしても年間200近い授業の振り返りができます。それは200の課題を見つけ、その解決に向けて授業と向き合ったことになります。また、こうして見つけた課題は「授業の観点」となって、今後授業をするとき、見るときに大いに役立っていきます。課題意識をもって授業に臨む教師とそうでない教師との授業力の差は歴然であることはいまでもありません。



まなび野洲チャレンジ！

今回はこの問題です。正しい答えの番号はどれでしょう。
答えは最下段に載せています。

右の写真の人物は、江戸時代、野洲生まれ、「源氏物語」「枕草子」などを研究し、読みやすく注釈を加えました。松尾芭蕉を弟子とし、国文学者・俳人・歌人として活躍したこの人物はだれですか？

- ①小林一茶 ②本居宣長 ③井原西鶴 ④北村季吟



おすすめの1冊

「日本教育新聞」書評より



『特別支援教育の視点で考える学級担任の仕事術 100』
増田 謙太郎 著 出版社 明治図書

特別支援学級の視点を学級経営に生かそう

本書では、学級担任が困っている子どもにできる支援を紹介しています。特性に応じた指導や困った行動への対応法から、保護者対応、個別の指導計画の作成まで、100の仕事術を公開しています。多忙を極める学級担任が、なるべく近道をして、たくさんの子どもの幸せにする方法を示しています。

7章からなるバラエティに富んだ仕事術の本ですので、必要な箇所から読むことができます。